



Good Job! Document

「福祉」と「仕事」の
これからの関係づくり

Vol. 04

2014. November

Contents:

Good Job! Collaboration

File 07

サルビア × クラフト工房 La Mano

File 08

たいせつプロダクト × あいあいエクスプリモ

Good Job! Search / Keep Trying / Field Notes

Good Job! RECOMMEND

07 地球村のバスボム 08 障がい者千人雇用

BOOK REVIEW

SELECTOR: 高橋孝治

福祉、企業、NPO、自治体、研究機関など各分野の専門家が手を組み、新しい仕事をつくり出す「Good Job!」。「Good Job! Document」は、そういった「Good Job!」の思想・活動を広く伝えることを目的に生まれました。「Good Job!」から生まれたプロダクトを中心に、そこに込められた想いやプロセスを紹介。企画・製造・流通など商品開発に携わる、さまざまなプロフェッショナルの言葉を通して、これからの「仕事」「ものづくり」「福祉」のあり方、可能性について探ります。



File 07

ていねいなものづくりのコラボレーション

伝統工芸・地場産業との協働

NPO法人

サルビア

× クラフト工房 La Mano

<http://www.salvia.jp/>

<http://www.la-mano.jp/>



▲ La Manoとサルビアが協働で開発した手織りのラグ。小ぶりのものから玄関に敷ける大きさのものまで、サイズはさまざま。手織りならではの、ふんわりとした感触が特徴。

photo: Kouda Masahiro

メディアと工房のコラボレーション！

篠田さん、高野さん、 どうやって実現したんですか？

——サルビアが発行する、全国にある工房のものづくりと商品の魅力を伝える季刊『サルビア』。vol.34の特集では、染色・織に取り組むクラフト工房 La Manoと協働し、手織りのラグマットを制作しました。織の設計から制作まで、各々の手作業が光るていねいなものづくりのあり方について、サルビアの篠田さん、La Manoの高野さんにお聞きしました。

Q1

本プロジェクトをはじめたきっかけについて聞かせてください。

篠田：『サルビア』では、和紙を使ったアクセサリー、手捺染、保存食づくりなど日本中をまわりながらその活動を記録しています。La Manoさんとの出会いは、2010年、知人である町田しぜんの国保育園の園長夫妻にご紹介いただいたのが最初でした。La Manoさんの工房を拝見し、その活動やものづくりにおけるクオリティの高さに感銘を受け、交流がスタート。その1年後、藍染めの手ぬぐいの制作ではじめてご一緒しました。『サルビア』でも特集させていただいています。今回はLa Manoの織部門を担当する山口さんから、「最近こんなこともしているんです」と手織りのアイテムをすすめていただき、手織りのラグマットづくりを共同で行う企画がはじまりました。



サルビア
篠田由梨子さん
本プロジェクト担当



クラフト工房 La Mano
高野賢二さん
La Mano施設長

Q2

プロジェクトを進める上で、意識したことやこだわりなどがありますか？

高野：お話をいただいたとき印象的だったのは、サルビアさんが「メンバーさんの個性を引き出した工房であることを一番に伝えたい」とおっしゃったことです。商品開発にあたっては、作業の内容やクオリティの高さ、メンバー個々の技量など、さまざまな点を考慮する必要がありました。進行中は、メンバーがさまざまな工程で制作に関わっていることも意識しましたね。また、それらの作業がメンバーの工賃につながることも重要なポイントです。

Q3

今後の展開や期待していることについて、お聞かせください。

篠田：企画やものづくりなどそれぞれができることを補いあって、相乗的に広がりをもたらすことができたらと思っています。はじめてLa Manoさんを訪れた際、障害のある人が得意なことや特性を活かしながら、楽しく働いている姿が印象的でした。『サルビア』や今回のコラボ商品を通して、La Manoさんの素敵な活動やものづくりをもっとたくさんの方に知っていただけたらなと思っています。

3 TOPICS

作業工程にメンバーの個性を活かす！



photo: masaco

La Manoでは、工房で働くメンバーの得意なもの・ことに合わせ、作業を分担。「働くことは賃金を得ることでもある」という考えのもと、高いクオリティの商品をつくってきました。制作すること自体が生活や生きがいにつながるよう意識しています。

ものづくりを過程からていねいに見つめる！



季刊の小冊子『サルビア』は、これまでに34号発行（2014年9月現在）しています。サルビアのスタッフが各地を歩き回り、手捺染、手織物など、手仕事が生まれる現場をていねいに取材・発信しています。読者が実際に制作を楽しむページも豊富です。

染めや織りに特化した商品群！



La Manoの定番人気商品のひとつ、手ぬぐい。模様のデザインや染めの作業行程など、多くの過程を障害のあるメンバーがていねいに手がけています。ほかにマフラーや靴下なども制作・販売。一人ひとりの個性を存分に発揮したプロダクトが光ります。

サルビア [設立: 2000年 拠点: 東京・台東区]
全国の地場産業や昔ながらの職人とのものづくりを紹介する冊子発行。また、拠点となるアトリエにて、暮らしのためのワークショップなどを開催。

クラフト工房 La Mano [設立: 1992年 拠点: 東京・町田市]
一般就労の困難な人たちがいきいきと働ける場をめざして設立。染・織・刺繍・アートなど、さまざまな技法を用いてものづくりをしています。



File 08 商品開発・制作・販売までの一貫した仕組み

マーケットインプロジェクト 芸術表現活動 たいせつプロダクト × あいあいエクスプリモ

<http://taisetsu.shop-pro.jp/>



▲ あいあいエクスプリモで生まれたイラストをもとに、たいせつプロダクトがテキスタイル化。ともに商品開発を行った大人用カットソーとベビー用ワンピース。

photo: Kouda Masahiro

芸術表現と商業のコラボレーション！

鬼塚さん、深見さん、 どうやって実現したんですか？

—— 福岡を拠点とする、たいせつプロダクトと、あいあいエクスプリモのコラボレーションによる、アートテキスタイルプロダクト。障害のある人の作品を日々の暮らしにさりげなく溶け込ませています。開発から販売までを一貫して行う取り組みについて、たいせつプロダクトの鬼塚さん、あいあいエクスプリモの深見さんにお話をお聞きました。

Q1 本プロジェクトをはじめたきっかけについて聞かせてください。

鬼塚：2009年に福岡デザインリーグの活動を通し、福岡で活動する障がい福祉サービス事業所愛さんの芸術表現活動あいあいエクスプリモが始動しました。毎回、生み出される作品があまりにも素晴らしく、この良さをもっと多くの人に楽しんでもらえたらと思ったのが、このプロジェクトをはじめたきっかけです。最初はイラストをもとにしたカレンダーやポストカードなどのステーションナリーを共同開発しました。そこから「アートのある暮らし&ファッション」をテーマに、テキスタイル、インテリア、身に纏うファッションへとカテゴリーが増えていき、現在はWebショップ「taisetsu store」にて販売。収益の一部があいあいエクスプリモの活動に役立てられています。



たいせつプロダクト
鬼塚淳子さん
たいせつプロダクトのオーガナイザー



あいあいエクスプリモ
深見 萌子さん
障がい福祉サービス事業所愛の施設職員

Q2

プロジェクトを進める上で、意識したことやこだわりなどはありますか？

深見：あいあいエクスプリモでは、月2回程度、鬼塚淳子先生(九州産業大学・臨床心理士)や、木村明子先生(たいせつプロダクト)らにご指導いただき、さまざまな活動を行っています。利用者の方のありのままの気持ち・考えを心おきなく表現できるような環境づくりが大事だと考えています。また、作業が「商品をつくる」目的にとどまらないよう、一人ひとりが自由に描ける白いキャンバスを揃えました。

Q3

今後の展開や期待していることについて、お聞かせください。

鬼塚：事業は今年で2シーズン目を迎えます。これまで、特に福祉サービス事業所発ということアピールせずとも、絵そのものの素晴らしさやデザインに共感してくれる大勢のファンに出会うことができました。今後も突出した個性あるものづくりを継続し、利益をつくり手に還元できる、循環するマーケットインを行っていきます。それを教育や就労と結びつけることで、私たちの活動に関わるみなさんと一緒に、しあわせになれるといいなと思っています。

⑧ TOPICS

全国で新作・限定商品に出会える！



これらの商品をより多くの方に知ってもらうため、地元・福岡天神のPARCO、岩田屋、三越で期間限定ショップを定期的に開催。年内も博多阪急、長崎アミュプラザ、鹿児島山形屋、東京MITATEギャラリーなどに新作や限定品もお目見えします。

職員もメンバーも、みんなが作者に！



隔週1時間半、あいあいエクスプリモを開催。毎回テーマを設定し、インストラクターと職員がメンバーさんたちと一緒に創作する作品は、相互作用から生まれる協働作品。あいあいエクスプリモという「創作の場」が重要な意味をもっています。

生地も包装も赤ちゃんにやさしい！



テキスタイルのなかでも特に素材や加工にこだわっているのが、ベビーライン。肌触りのよさを追求したトリプルガーゼ地や安心なタオル地を使用し、安全性を考えた吸着剤付き個包装も。かわいくて赤ちゃんにやさしいかたちを大切にしています。

あいあいエクスプリモ [設立:2009年 拠点:福岡・福岡市]
障がい福祉サービス事業所愛で行われている芸術表現活動。そこで生まれた作品を貸し出し、収益を施設へと還元している。

たいせつプロダクト [設立:2006年 拠点:福岡・福岡市]
有限会社ジェイズファクトリーが運営するブランドライン。あいあいエクスプリモで生み出された作品を商品化している。



GoodJob! Search

プロダクトを分析することで見える、
企業・作業所・個人の創意工夫から、
新たな仕事の、新たな可能性を探ります！

特殊技術が支える凹凸入りアイテム

dot paper item series

視覚障害者支援総合センター「チャレンジ」/ 東京

点字教科書の制作を行う視覚障害者支援総合センター「チャレンジ」と、無印良品などのプロダクトデザインを手がけるデザイナー・小山裕介、白鳥裕之(torinoko)が開発したペーパーアイテム。視覚障害者用の教科書に使われる、文字や動物、パターンなどの図柄の表現技術をモチーフに、デザインへと転用しています。「教科書の受注がない時期も安定して生産できるアイテムを」との考えから、封筒やポチ袋、コースターなど複数のアイテムが完成。色紙に浮かぶ繊細なドットでつくられた絵柄は、視覚障害のある人も、表面に施された凹凸に触れることで楽しめるデザインです！

凹凸を使った印刷方法のおもしろさや作業の社会的意義に魅了されました。型の制作から一つひとつ手づくりなので若干の違いやズレもありますが、それも含めて人の手を感じられる商品が完成したと思います。

小山裕介さん

白鳥裕之さん torinoko 代表



色とりどりのテキスタイルから新しい価値観を発信

UNICOLART

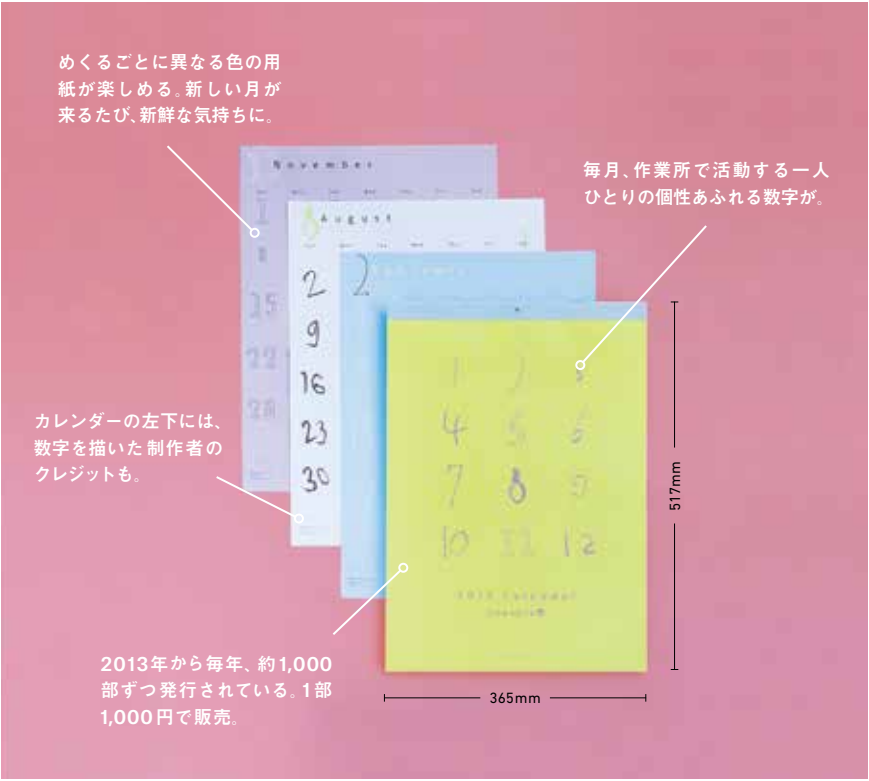
株式会社フェリシモ/神戸

大手通信販売会社・株式会社フェリシモが、全国のチャレンジド(障害のある人)とともに、さまざまな商品の開発・製造・販売を中心にその可能性を発信する「チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト(C.C.P)」。そこから生まれた新しいブランドが「UNICOLART(ユニカラート)」です。同社とチャレンジド・アーティスト、デザイナー、エイブルアート・カンパニーなど複数のパートナーが協力し、ファッションアイテムを中心に展開。原画をまるごと使ったデザインや作品からモチーフを切り抜いたデザインなど、絵画作品を用いたユニークなテキスタイルデザインを開発しています。

一方通行の従来型支援ではなく、循環型支援を。多くの企業やデザイナーと一緒に協働することで、障害のある人が主役となる世界の可能性を社会へと発信したい。そんな願いが詰まったプロジェクトです。

芦田晃人さん 株式会社フェリシモC.C.P
「UNICOLART(ユニカラート)」代表





一人ひとりの個性を活かす数字が主役！

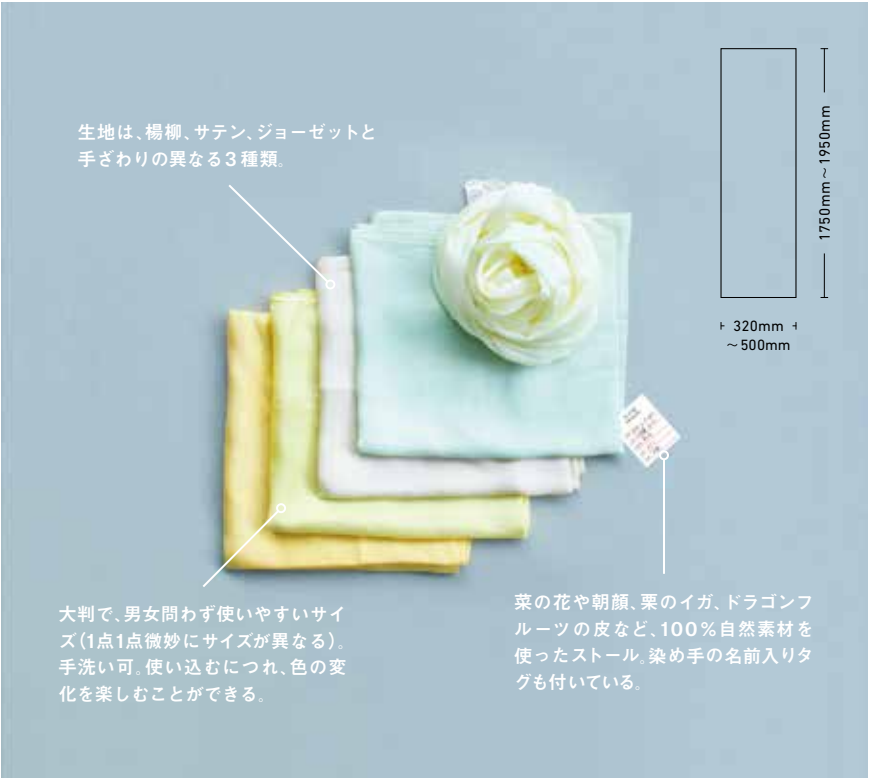
西淡路希望の家2015年度カレンダー

社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家 / 大阪

「生活に馴染んでくれるものを」という想いから生まれた手描きの数字を使ったカレンダー。月ごとの紙面を彩るのは絵画作品ではなく、各作家が描いた個性的な数字です。神戸を拠点に活動する「明後日デザイン制作所」によるシンプルで美しいレイアウトで、2013年度より商品化を継続。

施設には絵は描けなくても数字なら描けるという人も多く、集めてみると個性的な数字がたくさん。感激しました。

金武啓子さん
西淡路希望の家 美術部 代表



ていねいに染め上げた世界にひとつだけの色！

百々染

社会福祉法人いぶき福祉会第二いぶき / 岐阜

福祉施設「第二いぶき」に併設する染工房が手がける草木染めのブランド。山に囲まれた緑豊かな地域に位置する染工房では、そこに自生する草花で染液をつくっています。季節や天候はもちろん、染め手によっても、一つひとつ異なる色に染め上がるのが特徴です。

染められた「とき」を大切に制作しています。Webショップでは、大切にしたい日付につくられた商品を選べます。

初瀬尾久美子さん
社会福祉法人いぶき福祉会第二いぶき
スタッフ



京都の産学公連携で商品化を実現！

やつはしスティック

はあと・フレンズ・プロジェクト / 京都

福祉施設などが手がける製品の販路拡大や品質向上をめざす、京都市の取り組みから誕生したクッキー。原案からパッケージ制作に至るまで、福祉施設と地元企業や製菓学校、芸術大学が連携し、プロジェクトを展開、障害のある人たちの多様な働き方を支援しています。

クッキーがもつ硬めの食感を活かし、スティック状に、紅茶などに浸して異なる食感を楽しめるように工夫しました。

藤井雅子さん
はあと・フレンズ・ストア 代表



ライフライン選びで福祉施設を支援！

Clip「宇宙に漂うおもしろいもの」

株式会社ソフィア「Lifesupport Concierge プロジェクト」 / 大阪

障害のある人のアート作品を、より身近にしたいと発足した株式会社ソフィアによるプロジェクト。同社を通してインターネット回線の契約を行うと、LSCが支援する福祉施設たんぼの家がセレクトする作家のノベルティ・グッズが届きます。企業による就労支援の仕組みです。

第六感の優れた人材とともに成長し、LSC事業を通じ人の輪を広げ、社会貢献につなげていきたいです。

一坂正和さん
株式会社ソフィア 代表取締役社長



keep trying...

愛知県にて約400年続く伝統技術「有松絞り」を手がける



有限会社 絞染色久野染工場

創業年:1912年(大正元年)
住所:愛知県名古屋市長区境松1丁目609番地
代表者:久野剛資
従業員数:8人 従業員平均年齢:55歳
工場敷地面積:700㎡ 年商:3,000万円

有松絞りとは……

約400年前より愛知県名古屋市緑区の有松・鳴海地域を中心に生産される絞り染めの技法。主に、木綿布を用いた藍染めのことを指し、模様を出すための絞りは約100種にもおよぶ。



の場合

はじまり



久野専務には、こんな悩みが……

伝統をもとに引き継ぐ「人手が不足していました。」

久野染工場専務・久野さんが考える 伝統技術をもつ工場の可能性

久野染工場では、2014年から「工房と工場のあいだ」をテーマに工場の刷新を図っています。400年の歴史をもつ有松・鳴海絞りも、1点ものに価値を置く工芸や大量生産で利益を生み出すビジネスモデルでは、伝統技術の持続的な継承が難しくなっています。

そこで、少量多品種のものづくりに焦点を定め、素材の製造だけではなく、素材からともにつくるコミュニケーションのプラットフォームとなる工場をめざしています。クリエイターに限らず、創造性を引き出す基盤として機能する工場から、伝統を引き継ぐ新たなものづくりに挑戦していきます。

2014

STEP 02

たんぼの家がコーディネーターとなりプロジェクトが再開！

有松絞り
久野染工場

+

デザインリサーチャー
浅野翔

2012

STEP 01

名古屋市内の福祉施設と商品開発に挑戦

有松絞り
久野染工場

+

認定NPO法人
ポパイ

久野浩彬
(久野染工場 専務)

福祉主導かものづくり主導か、何を手がかりに考えれば良いのかわからなくなっていました……

デザインリサーチャー・浅野さんが考える

デザインの可能性

デザインとは、コミュニケーション。まだ表面化していない福祉と伝統工芸が結びついて生まれる価値にカタチを与えるには、使い手も含めた関係者間の理解が大切です。何をつくるのか定まっていなから動きはじめた久野染工場×Good Job! プロジェクトでは、福祉施設の特徴や能力を引き出し、染色工場との協働で生み出される価値に対する相互理解が求められていました。

今回「何かしたいけれど何をすればよいかわからない」製造業者と福祉施設に具体的な手続きと方向性を見いだすためのワークショップを構成。そして、得られた特徴的な制作物を分析し、見えてきたプロダクトの方向性をテキストデザイナーへと伝えること。そのプロセスは、まさに対話の繰り返しでした。

本プロジェクトにおけるデザインの役割とは、表層的な意匠の検討だけではなく、相互理解を通じたものづくりの動機づけにありました。今回開発したプロダクトが、次に使い手の方々と新たな交流を生むことを期待してやみません。

デザインリサーチャーとは……

本プロジェクトにおいては、工場と作業所・Good Job! プロジェクト・デザイナーとの間で、企画立案からワークショップまでの設計、都度分析を実施。働き方の提案を含めた、商品開発へとつなげていく横断的な役割を担っています。

STEP 03

プロジェクトチームで打ち合わせを重ね、商品開発へ向けたワークショップを実施

01



9/24

まずは基本の絞り染めを体験

福祉施設メンバーとスタッフが1人ずつ参加。実際に何ができるのか工場側も見通せないなか、絞り染めの工程を体験。職人顔負けの技術、手先の器用さ、創造力。各々の個性と得意分野を見ることができました。

02



10/7

絞り染め応用編+異なる素材で実験

初回と同メンバーで「絞り」に焦点を当て、板締め絞り・ピー玉絞り・竜巻絞りを実施！アウトドア製品を想定しナイロン地の染めに挑戦(工場初)。生地が固いため、折りたたむ作業や糸で布を絞るのも一苦労の様子。

03



10/23

制作工程+色味の確認

より本番に近い大きなサイズの生地を使用し、前回同様の絞り工程を経て、天然・化学繊維の染まり方の違い、スタッフのサポートが必要な工程を確認。各々、制作工程をイメージしながら、好きな色に染め上げていきました。

STEP 04

クラウドファンディングで応援を求める



小林大祐
(一般財団法人たんぼの家)

伝統工芸のなかで障害のある人の仕事を開発できるように、支援できる仕組みをつくりました。

デザイン案が完成し、サンプル制作に入る

テキストデザイナー
泉水綾乃

ワークショップで分析してきた各作業所メンバーの特性から、柄や素材、何をつくるかを検討しました。レインポンチョの制作を開始！

STEP 05

商品開発を進めることで見えてきた、
伝統産業×福祉施設の新しいものづくり

——ワークショップを終えて、おふたりが考える、今後の展望を聞かせてください。
浅野:まずは商品を生産するために、撥水加工の業者とレインポンチョに合う素材を卸してくれる業者を探すことでしょうか。
久野:そうですね。ただ、私たちと同じような境遇にあって、強い意気込みをもった人たちとのづくりがしたいです。福祉施設と工場が同じ課題をかかえているからこそ、新しい働き方を考えていこうと協働することができる。
浅野:ニコニコハウスの代表の方が、「障害者福祉施設は、「労働」だけをする場所ではない。

手間がかかっても良いと思えるものにじっくり向き合ってくれることが、このプロジェクトの良いところだ」とおっしゃっていて。
久野:専門性をもって、あるいは必死に何かをつくる人たちが集まって、技術を共有しつつ協議のなかで生まれるものこそ、良いものになると思うんですね。
浅野:伝統技術をただ伝えるのではなく、どんどん新たな担い手(今回は福祉施設)とコラボしていくことで、職人とは異なる思考や体の動かし方から技術を使ってもらい、新たなものづくりをしていけたらうれしいですね。



久野染工場専務
久野浩彬さん

1984年生まれ。ATSUMARI教室にて継続して講師を勤める。(有)絞染色 久野染工場を5代目として継ぐ。



デザインリサーチャー
浅野翔さん

1987年生まれ。2014年京都工芸繊維大学大学院修了。デザインリサーチャー/サービスデザイナーとして活動中。



一般財団法人たんぼの家の
小林大祐さん

アート・ビジネス・福祉の領域を超えて新たな出会いと仕事を生み出すGood Job!プロジェクト事務局。

FIELD NOTES

Good Job! な活動と出会い、感じ考えたことをつづる

定例講座

「スキンケア＆メイク講座」

2014.09.28(日)

ハーバー銀座館3F セミナールーム

主催:株式会社ハーバー 研究所×エイブルアート・カンパニー
協力:一般財団法人たんぼの家

執筆

原田恵

株式会社リ・パブリック アシスタント・ディレクター

東京大学大学院新領域創成科学研究科修了(環境学)。東京大学 i.school 2012年度通年生。ランドスケープを学んだ後、市民参加型まちづくりに興味をもち、民・官・学によるまちづくり活動、コミュニティカフェの運営など、学内外の活動に参加。

障がい者を対象とした企業の活動は、慈善活動のようにとらえられることが多くあります。しかし、彼らのできること／できないことが多様であるからこそ、その活動には大きな気づきやインパクトが存在します。そこには、慈善活動という枠には留まらない価値があるのではないのでしょうか。ハーバー研究所では、就労の機会が増えた障がい者向けに、2009年からスキンケア・メイク講座を行っています。これまで開催した講座は50回以上。その講座にお邪魔させていただきました。



講座は、ハーバー研究所ビューティプロデューサー・廣森知恵子さんの明るい挨拶ではじまりました。スタッフのサポートのもと、講座は身だしなみチェック、洗顔、メイクと進んでいきます。はじめは少し緊張した表情だった

参加者のみなさん。しかし、ふとある参加者がクレンジング後の自分の顔に触れた瞬間、それまで不安げだった顔が、みるみるうちにリラックスした表情に変わったのです。ファンデーションを塗り終えるころには、自然と笑顔がこぼれるようになりました。講座の終了時、感想を述べている参加者の表情は、みな誇らしげでした。そんな参加者たちの様子に、はじめは不安そうな表情で見守っていた参加者の親たちも「これからは少しずつ自分たちでやらせてみたい」と前向きな気持ちになったようです。

このように、このメイク講座は、参加者や



障害のあるアーティストの作品を表紙に起用した、ハーバーの商品カタログ

その親たちみなが自信、すなわちそれぞれの自立への第一歩を得る場となっていました。そこには「メイクを通じて自立を促す」という、金銭だけではない企業の本質的な価値が存在しているのです。また、経験が

少ない人々にメイクを伝えるということを通じて、ハーバー研究所のスタッフ自身が「メイクによって人々に自信を与える」という事業の本質と向き合い、成長する場にもなっていました。つまり、障がい者をはじめ、高齢者など多様な人々との活動によって、企業が自らの本質と向き合うこととなり、社員や企業活動に対する持続的な変化=イノベーションをもたらしているのです。多くの企業が自らの存在意義を求め、試行錯誤しているこの時代のなかで、こうした「企業の本質を指し示す」価値をもつ活動が、今後より求められていくのではないのでしょうか。

仙台クラシックフェスティバル2014

東北から音楽にのせて ショップ「ハチブオンプ」

2014.10.03(金) - 05(日)

日立システムズホール 仙台(青年文化センター)

主催:AAR JAPAN [NPO法人難民を助ける会]
共催:NPO法人エイブル・アート・ジャパン
企画:エイブルアート・カンパニー

執筆

中谷由美子

エイブルアート・カンパニー 東京事務局スタッフ

1988年奈良生まれ。障害のある人の表現のおもしろさに惹かれ、奈良の福祉施設「たんぼの家アートセンター HANA」に就職。その後、2014年5月よりエイブルアート・カンパニー東京事務局に勤務。表現する人と、表現を求める人をつなぐ役目を担う。

「仙台クラシックフェスティバル2014」愛称「せんくら」は、誰もが気軽に楽しめる音楽フェスティバルとして毎年秋に仙台市内で開催され、今年で9回目を迎えます。2013年、エイブルアート・カンパニーが宮城県福祉施設の商品をセレクト、販売を行い「音楽のための復興センター東北」に売上5%を寄付。そのご縁から今年も会場で商品を販売することになり、東北の施設とともに商品の開発に取り組んできました。

参加したのは宮城県内の8つの福祉施設。「実践!モノづくりのためのコンセプトワークせんくら編」と題し、2回の勉強会を開催しました。はじめに「せんくら」事務局の松本俊幸さん(仙台市市民文化事業団)より開催主旨と概要の説明を受け、せんくらの実情を知った上で講座がスタート。デザイナーの前川亜希子さんを講師に迎え、ター



「実践!モノづくりのためのコンセプトワークせんくら編」の様子

ゲット設定やマーケティングなど、商品開発の基本を学ぶ座学と、参加者同士でディスカッションを行うワークショップを繰り返し実施。得た知識をすぐに使う講座は「実践」そのもので、短期間のうちに、参加者のなかにも変化があらわれました。後日、仙台フィルハーモニーの楽団員のみなさんのご協力を受け、講評会を開催。ブラッシュアップされた各施設の商品に対して、具体的な意見をいただき、本番へと備えます。

そしてついにせんくら初日、ショップ「ハチブオンプ」がデビューしました。この名前も講座のなかで生まれたもの。「日常に特別感を持ち帰り、ウキウキした気持ちになってほしい」という想いが込められています。イベント開始から足を止めてくださるお客さまに、笑顔で接する施設職員の方々。講座でそれぞれの施設が手がける商品のことを知り、商品の



魅力を伝えたいと思うからこそできる細やかな接客が、販売に結びつきました。

商品をただ黙々とつくるだけでなく、買う人や売り場を具体的に想像し、施設の内外でさまざまな人からの意見を受けたことで、成果が生まれました。しかし、職員の方からは「売り場に立って、はじめて課題を実感できた」という声も。終演後、販売実績の報告と分析をし、次回に向け意見交換を行いました。東北から音楽にのせて、これから「ハチブオンプ」はさらに進化していきます。

Good Job! RECOMMEND

「Good Job!」な活動を紹介します！

オリジナルロゼット製作：大野紅

Data 05：新たな仕事を生み出す技術と熱意に脱帽！

地球村のバスボム

／ 工房地球村[宮城] × 西山ケミックス[京都]

http://kobo-chikyumura.com/

「自分たちの技術を提供したい!」。そう名乗り出た京都府宇治市のゴム製造会社「西山ケミックス」は、東日本大震災で被害を受けた宮城県山元町の障害者施設、工房地球村と協働してオリジナル・バスボム(入浴剤)の型を開発しました。社長や担当社員も現地を訪問し、きれいな丸形がつかれるように、シリコン型から試行錯誤。表面には、工房メンバーが描いた山元町ならではの模様が! 長年培われた技術力が活かされ、新たな担い手と出会うことで、仕事を生み出すための誰もが使いやすい道具が生まれました。

活動団体からのコメント

バスボムの原材料・デザイン・紹介カード・シリコン型などを西山ケミックスさんやたんぼの家とともに試行錯誤しながらつくり上げた半年という月日の連携が、まさに Good Job! 田口ひろみ(工房地球村 施設長)

Data 06：住み良い社会を担う意気込みが魅力！

障がい者千人雇用

／ 総社市 保健福祉部 福祉課[岡山]

http://www.city.soja.okayama.jp/fukushi/shogaisha/senninkoyou/iinkai.html

岡山県総社市では「障害のある人の就労場所と出番をつくる!」と2011年から就労支援、生活支援に取り組んでいます。当初、稼働年齢にあたる障害者約1,200人のうち、市がわかり得る就労者は180人。そこから5年間で1,000人の就労をめざしました。2014年10月1日現在の就労者数は約800人! 福祉的事業所のひとつ、(社福)三穂の園が運営するガソリンスタンド「サンガーデン吉備路」にも新たな雇用が。資金と人材を市が支援することで、民間企業などへの就労の広がりが生まれています。

活動団体からのコメント

正直なところ、スタート当初は戸惑いもありました。しかし、障害のある人たちと「明るく・ていねいに」をモットーに日々、洗車や給油などさまざまな作業を行っています。坂本英明(社会福祉法人 三穂の園 住倉総社作業所 サービス管理責任者)

BOOK REVIEW

これからの福祉や仕事を考える3冊



01



『DOMA 秋岡芳夫 - モノへの思想と関係のデザイン』

編集:目黒区美術館
発行:美術出版社/2012年初版

40年前、「立ち止まった工業デザイナー」という肩書きで、「消費者をやめて、愛用者になろう!」と訴えた、希代のデザイナー・秋岡芳夫の足跡が記されている。

02



『地震イツモノート - 阪神・淡路大震災の被災者167人にきいたキモチの防災マニュアル』

編:地震イツモプロジェクト 監修:瀧美公秀 絵:寄藤文平
発行:木楽舎/2007年初版

「防災」が、地震のための特別な努力ではなく、私たちの日々の暮らしのなかに、自然と寄り添うものであって欲しい。そんな想いが被災された方の声とともに込められている。

03



『地球家族』

— 世界30か国のふつうの暮らし —

著者:マテリアルワールドプロジェクト、ピーター・メンツェル
翻訳:近藤真理、杉山良男 発行:TOTO出版/1994年初版

世界30カ国の平均的な家族のくらしの記録。家のなかのものを全部、家の前に出して写真撮影。カメラマンは、家族と1週間を過ごし、暮らしぶりに触れている。

3冊の本を選んだ理由

1960年代後半から、過剰な大量生産、大量消費社会に対して、毅然と批判し、行動を起こしたデザイナーがいたことを知り、ショックを受けた。そのデザイナー、秋岡芳夫の目黒区美術館での展覧会「DOMA 秋岡芳夫展ーモノへの思想と関係のデザイン」を見たのは2011年の10月。その年の3月に東日本大震災が起きたこともあり、いろいろと考え込んで仕事の手が止まってしまった。量産を前提とした日用品のデザインに意義を見いだせなくなってしまった。習慣になっていた深夜までの仕事をやめ、その分、家事をし、人に会い、本を読み、デザインの役割について考える時間とした。特に、それについて新しい視点を与えてくれた本を紹介したい。

高橋孝治／1980年大分県生まれ。2004年多摩美術大学卒業。2005年より、株式会社良品計画と業務委託契約を結び、無印良品の、主に生活雑貨の企画開発を行う。フリーランスとしても活動中。

Exhibition information

Good Life, Good Job!

Good Job!

2014

HOKKAIDO

11/21 (fri.) - 11/24 (mon.)
北海道新聞社1階DO-BOX

TOKYO

11/28 (fri.) - 11/30 (sun.)
渋谷ヒカリエ8F 8 / COURT

AICHI

12/12 (fri.) - 12/14 (sun.)
国際デザインセンター・デザインギャラリー
/ ナディアパーク2F アトリウム・イベントスペース

2015

FUKUOKA

1/23 (fri.) - 1/25 (sun.)
イムズB2F イムズプラザ

HYOGO

3/6 (fri.) - 3/8 (sun.)
KIITOデザイン・クリエイティブセンター神戸・ギャラリーA

MESSAGE

柴崎由美子 (NPO法人エイブル・アート・ジャパン)

2014年度は、Good Job!展が全国5カ所を巡回します。公募形式にしたことで全国各地から多彩な活動が集まり、プロダクト中心の展示からより仕組みや背景がわかる展示にすることを意識しました。私自身は、2007年から障害のある作家の著作権マネジメントを行うエイブルアート・カンパニー事業を担当。しかし、日頃この事業だけではカバーできない取り組みもあると感じていました。なので、Good Job!プロジェクトにおいては、障害のある人と関わった人たちが、共鳴しながら新しい

仕事・新しい環境を生むことを期待しています。先日、エイブルアート・カンパニーの作品を使用しているハンカチメーカーを訪問しました。新作デザイン画を前にしながら、話はGood Job!な小ネタに……。ハンカチの包装紙の折加工を最寄りの福祉作業所をお願いしていること、納品に来てくれるのが楽しみなこと、地元の商店街で開催するパンまつりでは、とうとう福祉施設のパンまでプロデュースしはじめたことなど、なるほど、これこそが「Good Job!」ですね(笑と涙)。

【Good Job! Document 04】 発行日:2014年11月21日 発行元:一般財団法人たんぼの家 〒630-8044奈良市六条西3-25-4 Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501 E-mail goodjob@popo.or.jp URL http://goodjobproject.com/ 監修:Good Job!プロジェクト
編集ディレクション&編集:多田智美(MUESUM) 編集:永江大、和田真文(MUESUM) アートディレクション&デザイン:原田祐馬(UMA/design farm) デザイン:廣田碧、西野亮介(UMA/design farm) 印刷・製本:株式会社シーズクリエイティブ *本フリーペーパーは、下記の展覧会開催に際し発行されました。『Good Job! 展 2014-2015』 主催:一般財団法人たんぼの家/後援:北海道、愛知県、札幌市、名古屋、神戸市、福岡市、公立大学法人札幌市立大学、北海道新聞社/助成:日本財団/特別協賛:株式会社丹靑社、トヨタ自動車株式会社/協賛:株式会社国際デザインセンター、株式会社ソフィア、株式会社竹尾、株式会社西山ケミックス、株式会社ハーバー研究所、株式会社プリプレス・センター、コクヨファニチャー株式会社、明治安田生命保険相互会社、WARDROBE by DHC/協力:イムズ、渋谷ヒカリエ、一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる



株式会社 丹青社

TOYOTA



Sophia



CHEMIX

HABA

株式会社 プリプレス・センター

KOKUYO

明治安田生命

WARDROBE